



『心臓に雑音があると 言われたら』

函館中央病院 循環器内科

齊藤 尚孝 科長

略歴：平成2年 北海道大学医学部卒業。同年より北海道大学病院循環器内科に勤務。市立旭川病院、札幌厚生病院、市立札幌病院、市立函館病院を経て、平成12年より函館中央病院循環器内科に勤務。平成22年、同科科長に就任。専門分野は循環器超音波診断、心血管インターベンション治療。日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本超音波医学会専門医・指導医、日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医

これからの時期、入学や就職などで健康診断を受ける方も多いと思います。そのとき突然、心臓に雑音があると言われたら皆さんとても驚くでしょう。しかし、心臓に雑音と言われたからといって、必ずしも悲観的になる必要はありません。心臓の雑音の原因は様々であり、心臓に異常がなくても聞こえる場合もあります。そこで今回は心雑音に関してお話しします。

心臓の音には、心音と心雑音があります。心音とは「ドッキンドッキン」という音のことで心臓弁膜が閉じる音です。心雑音とは「ザザー」などと聞こえる音で、弁膜の開閉が悪い時や血液の流れが速くなると生じます。

古代より病気になるのと体の音が変化することが判っていました。音が聞こえるためには、患者の体に直接耳をつける必要があります。19世紀の聴診器の発明により、医師は体の中で何が起きているのかを推測できるようになりました。心電図もレントゲン写真もない頃です。大変な作業ですが、「弁膜や血管が狭い」「弁膜が壊れて逆流している」「心臓に穴があいている」など心臓の病気があって聞こえる心雑音の性質が判ってきました。これらを「器質

性（病的）心雑音」といいます。しかし一方で、確かに雑音は聞こえるのに、病気がない場合があることも判りました。これが「機能的（無害性）心雑音」です。小児期や青年期などで、心臓内の血液の流れが速い場合に聞こえます。

心雑音の判定は微妙な場合もあります。昔は聴診器しか診断の手段がありませんでしたが、今は心臓超音波検査などではつきりさせることができます。心雑音の検査を勧められた時には、その緊急性の有無を聞いておけば、過度の心配をしないで済むかもしれません。

函館中央病院

函館市本町33-2
☎0138-52-1231(代)

診療科目／内科、消化器内科、循環器内科、産婦人科、小児科、外科、整形外科、形成外科、心臓血管外科など全22科目

受付時間／8:30～11:30・13:30～16:00

※土曜は午前のみ。

診療科や時間帯によっては要予約。

休診日／日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)

<http://www.chubyu.com/>